

Heimat

ハイマート

ぐんま日独協会・会報

2008年10月10日

独日パートナー会議

34号 参加者
特別寄稿号

発行者 鈴木 克彬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0105 <http://www.idg-gunma.jp/>

群馬県勢多郡富士見村石井 2445-819

027-288-4297 (鈴木方)



ドイツ音楽会 (澤田まゆみさんのピアノ)・・・100名強の方が参加され大好評でした。

平成20年(2008年)9月13日(土) 13:30～15:30 高崎市榛名文化会館(エコール)小ホールにて

目次

頁

2008年全国独日協会総会と 日独パートナー会議に出席して・・・	2～7
会長 鈴木克彬	
特別顧問 佐藤進一	常任理事 豊泉清
理事 末永秀雄・末永マサ子 鈴木和子 豊泉君代	
ジャーマンポテトの作り方 藤井貞二・・・	7
トピックス	・・・8

【お知らせ】

1. ドイツサロン 毎月第一土曜日 14:00～19:00
場所：ドイツロンネフェルト紅茶店『陶豆屋』
・高崎市石原町 3235 tel027-327-4151
- 2 ドイツ環境問題講演会
講師ドイツ大使館 環境担当専門官ニチェ氏
平成20年(2008年)11月5日(水) 13:30～15:30
場所 群馬会館ホール

ドイツと更なる友好関係をめざして

・ ・ 2008 年全国独日協会総会と日独パートナー会議に参加して ・ ・

会長 鈴木克彬

2008 年 5 月 1 日 2 日 3 日の三日間、ドイツカールスルーエ市で開催された全国独日協会総会とそれに併せて行われた日独パートナー会議に出席のため、ぐんま日独協会から次の 8 名(全体では 48 名)がドイツを訪問しました。

佐藤進一さん、對馬良一さん、豊泉清さん、豊泉君代さん、末永秀雄さん、
末永マサ子さん、鈴木和子さん、それに鈴木克彬の 8 名です。

日程は、對馬さんだけが 4 月 19 日のベルリンからの長期参加でしたが、他の 7 名は 4 月 24 日から 5 月 8 日までの 13 泊 15 日という内容でした。訪問先は、ハーメルン、レムゴー、ビーレフェルト、ケルン、デュッセルドルフ、アーヘン、ボン、カールスルーエ、ザールブルッケン、トーリア、フランクフルトというドイツ西部地方の都市を回り、各協会との交流に努めました。

ドイツ側協会からは大変な歓迎を受けましたが、私には特に、次の 3 点が頭に残りました。

- 1 少子高齢化社会に伴う社会福祉政策の苦悩、低コスト地域への企業移転、教育レベルの低下、環境問題への対応等、両国の問題点には、きりがありません。このような諸々の課題に対し、東西の先進国である日独の連携・協力は益々必要だと思いました。
- 2 カールスルーエとレムゴーで立派な日本庭園を見ました。そこの石塔にあった故石橋長英先生(日本国際医学協会の理事長で平形義人名誉会長の恩師)のお名前を見て、改めて石橋先生のご努力・熱意・信念に胸が打たれるとともに多くの先人方が果たされた友好関係への蓄積を感じました。
- 3 発祥地日本のマンガ・アニメが、ドイツの若者達に愛され、ドイツの本屋さんに NARUTO や SAKURA WARS 等のドイツ語版が並んでいました。そして多くの若者達が、マンガ・アニメを通して日本に関心を持つようになった、とのこと。改めて文化の多彩さ感じました。

音楽大国ドイツ

前橋市 佐藤進一

私がドイツ旅行でもっとも期待するのは音楽鑑賞です。ドイツは大抵の都市でオペラやシンフォニーを楽しむことができます。旅行者のために当日売りのチケットもありますので、開演時間前に行けば手に入ります。今度の旅行は日独両協会親善交歓が主な目的ですから、音楽鑑賞は特にセットされていませんでしたが、その代わり地元の人達による合唱や器楽合奏・ソプラノを聞くことができ、充分堪能しました。

先ずドイツへ着いた翌日、ハーメルンの笛吹き男が私達を迎えてくれました。

Eフラットのクラリネットで華やかな旋律を吹きまくり、私達を引き寄せました。午後はヘヤ

フォードのビール会社へ案内されましたが、従業員達による男性合唱(アカペラ)が賑やかに我々を歓迎してくれました。企業の中の女声合唱は日本でも屡(しばしば)見かけますが、男声合唱は仲々難しいのです。彼らの発声は魅力的で素人とは思えないようなものでした。私はとっさに何かお返しをしなければと思い、シューベルトの野ばらを原語で歌いました。実は協会から渡された日程表には各地のイベントに音楽が占められているので、返礼に私の歌をと思い、ひそかに準備していました。その後も各地の歓迎に答えることができました。歌には歌で答える、これが音楽ファンのエチケットです。

改めて変化と歴史を感じたドイツ 對馬良一

今回の旅行は、“旅行会社の買い物ツアー”と異なり、見聞と知識を得た有意義な旅行だった。ドイツ国内にある32のユネスコ文化遺産のうち、10ヶ所の文化遺産を見学することができた。

また歴史上の貴重な遺跡、遺産建造物を多く見学でき、さらに多くのドイツの著名人や高官の方々との交流も多かった。各地の市長や州知事、議会議員なども挨拶に訪れ、我々を接待してくれた。

ちょうど、ハノーバーメッセと時期が重なり、ホテルの確保が困難で、田舎での宿泊もあった。しかし、それが村人との交流の場となり、日独友好の架け橋にもなった。特に、ライライフツェーンという人口180名の村人の殆んどの人が参加した“桜まつり”の会場では、大変な歓迎だった。馬車での村内案内、大きな豚の丸焼きと、アルコール45度のシュナップス酒とビール。そして楽団とダンス、桜の女王との交流、復路は遊覧船による宿までの送迎。楽しい一日でした。とにかく、どこでも、州知事や市長の暖かい歓迎を受けた。

アーヘンでは、翌日、メルケル首相のヨーロッパ平和賞の授賞式を控え、その準備の大忙しの中、歓迎して下さったアーヘン市長、ほか訪問先では、その地の首長が挨拶に来てくれたのが特徴でした。

今回の旅行で楽しみにしていた2005年の宇都宮で第一回パートナー会議の参加者とお会いすることでした。幸い90人のうち約45人の方とお会いでき感激でした。しかももう一つの楽しみにしていた、ハンバッハの褐炭の採掘場の見学が、バスの接触事故のため、中止せざるを得なかったのは残念でした。この露天掘りの炭鉱は、人口1万500人の住民を移転させて開発したドイツ最大の褐炭の露天掘りの採炭場である。2060年に採掘跡地は人造湖になる予定である。

前半の一週間は旧東ドイツ領の見学が多かった。メルゼブルグ、ハレー、クヴェートリンブルク、ヴェルゲローデなどの地は、東西ドイツに分断されたいた当時は、軍事秘密基地や軍の施設があり、一般の人の立ち入りは禁止されていた。統一後は、観光地として素朴な木組みの家並みが多く観光客を呼ぶようになった。夢の国に来たような錯覚に落ちるほど素晴らしい町であった。限りなく美しい国ドイツに再び訪れる日の来ることを願っている。

ドイツ研修旅行中の ストラスブールでのひととき

豊泉 清

日独協会が企画したドイツ研修旅行に夫婦揃って参加する機会を恵まれた。私ども夫妻は別個にドイツを訪れたことが何回かあるが、同時に旅行するのは始めてであり、また今回の旅程も二人にとって初めて訪れる地域だった。連日のように強烈な異文化刺激を受けて大腦を活性化することができ、終生忘れ得ない有意義な旅となった。

二週間に亘るドイツ旅行中に、特に印象に残る日があった。それはフランス領のストラスブールを散策する日帰り旅行である。ストラスブールは独仏間の国境争いで何度も所属が変わり、歴史の荒波に揉まれた都市である。異国を訪れる際には、国境で旅券の検問を受けるのが当然と思い込んでいたが、私どもがドイツから乗ったバスは国境を意識しないまま、いつの間にかフランス領を走っていた。

ストラスブールでは土産屋さんでフランス語を口にしながら買い物を楽しみ、喫茶店では店員とフランス語でのお喋りを楽しんだ。ドイツ語漬けの旅の途中で大腦のスイッチを切り換えて大いに気分転換を試みた。皮肉めいているが、ドイツ研修旅行中にフランスでフランス語を口にしたひとときが最も強烈に印象に残っている。

ドイツ親善旅行に参加して

末永秀雄・末永マサ子

2週間のドイツ親善旅行は、非常に内容の充実した素晴らしいものでした。約12時間かけて、ミュンヘン空港に着陸する寸前に、「ドカーン」とものすごい音がして機内の電気が消えてしまいました。飛行機に落雷です。はじめての経験でした。一瞬びっくりしましたが、飛行機には翼のところに避雷針が装備されているので、大きなトラブルもなく本当に良かったです。

ミュンヘン空港は、きれいな「にじ」で、ドイツ親善旅行団を迎えてくれました。これからの「日独友好親善の交流」に新しい夢と希望を与えてくれる神秘的なものを感じました。この新たなる「虹の架け橋」を大事にしていこうと胸を膨らませながら、ドイツ国内線を乗り継いでハノーバー空港に到着。今度は急いで電車に乗り込んで、ハノーバー発19時36分のSバーンで、薄暗い夜のハノーバーの街を眺めながら、目的地ハーメルンの次の駅に22時40分ごろに到着。真っ暗で寒い無人駅で、23時20分頃までバスを待って、ボーデンヴェルダー(Bodenwerder)のホテルに何とかたどり着きました。

4月25日の朝、我々第2グループは、4月19日にベルリン入りした第1グループと合流し、いよいよドイツ旅行の第一日目が始まります。ボーデンヴェルダーでは、「ほら吹き男爵」の博物館、ハーメルンでは、「ハーメルンの笛吹き男」の後について市内見学をし、ミンデンでは、なだらかでゆったりと流れているヴェーゼル川と立体交差する運河の「ボートツアー」を体験しました。

午後はヘアフォルト(Herford)に移動し「近代建築美術館」を見学して、8 Km先のバートザルツウフレン(Bad Salzuflen)まで楽しい110Kmの行程を無事にクリアしました。

4月26日(第二日目)はザルツウフレンの珍しい温泉保養地を見学し、午後はケンペル生誕の地レムゴー(Lemgo)を訪問しました。ケンペルはオランダの商館長の付添人医師として長崎の出島に滞在したことがあり、1690年(元禄3年)~1692年(元禄5年)の間、江戸参府に2回も随行し、徳川綱吉に謁見したことが、ケンペル記念碑に刻まれていました。ケンペルは日本滞在中に、日本のことを詳細に観測記録し、膨大な資料をヨーロッパに紹介しています。その隣には、石橋長英博士の記念碑が並んで建っていました。石橋長英先生は、ぐんま日独協会名誉会長平形義人博士と一緒にレムゴを度々訪問されたことをここで初めて知りました。

ケンペルの貴重な資料「日本誌」を学んだシーボルトは、オランダ商館長の付添人医師として1823年に来日しています。ケンペルと同じ足跡をたどったシーボルトも、江戸参府に随行し、日本の通訳から入手した伊能忠敬作成の日本地図などの膨大な資料を、帰国直前の1829年に、オランダに密かに送り込んだとのこと。確かにオランダのライデン大学資料館にはびっくりするほどの資料があることを思い起こしました。

私たち夫婦は、「2002年度オランダ・ライデン大学高崎市民講座」で、ケンペルのことを学び、ドイツのことをもっともっと知りたいと思っていました。今回の旅行は、本当に勉強になりよかったです。

最後になりましたが、突然の痛風発作では、「ドカーン」と雷に打たれたようでした。幸い同行の皆様には本当に親切にして戴き、またと無い2週間の旅行が続けられましたこと、夫婦共々心より感謝申し上げます。ダンケ シェーン！

ドイツ訪問報告

鈴木和子

4月24日に日本を出発した『あと組』はいろいろなハプニングを経て、やっと真夜中にボーデンヴェルダールのホテルに到着、長い一日でした。

翌日は、19日に出発した『先組み』と合流、総勢48名のドイツ国内各独日協会訪問の旅がスタートしました。

今回の第一目的はカールスルーエでの独日協会(全独)総会参加ということでしたが、パートナー会議のメンバーとして訪問した地はあまりにも多く憶えきれないほどでした。でも『後組み』より長い日程の『先組み』はもっと大変だったと思います。

訪問先では、市長さん、議長さん、独日協会の会長さんや役員の方々等、多勢の歓迎を受けました。そして、それぞれ、ご当地の特徴をもって親切丁寧にもてなしてくださいました。

今年の総会開催地カールスルーエでは、フリッツ・松島照子会長が大奮とう、歓迎パーティーはカールスルーエ城の大広間でした。総会時のプログラムの中にガジノ見学と講演会の二つがあり、それぞれ希望のところに参加しました。講演会は、この為にわざわざアメリカ在の日本人ジャーナリストが招かれ、独・中関係について一石を投じる内容でした。

今回の旅で心に残ったのは数多くありますが、特記したいことは、ザールブリュッケンを訪れた時、宿泊場所についたら、独日協会の会長さんが出迎えてくださり、一人ひとりに白い角封筒と部屋のキーが手渡されました。それぞれに氏名とルームNoが達筆で書かれていました。

部屋で角封筒を開いてみると、

立派な招待状があり、その夜のカジノ協会レセプションルームでの夕食会とミニコンサートのプログラムでした。それだけでも感激でしたが、おいしいお料理と、そのあとの役員夫人によるオペラのアリアやクラシックの名唱が何ともすばらしく、ピアノ伴奏が日本人女性だったのもうれしいことでした。会長さんの思い入れが感じられ印象に残っています。

バスの道中はすばらしく、特にライン上流のモーゼル川の緩やかな流れと川岸周辺の風景は今でも目に浮かびます。どの場所も額の中に飾れそうなところばかりでした。そして特徴的なのは、河岸の丘のほとんどがブドー畑でなるほどワインの名産地だ、とうなづけました。

日独の交流には、長い親しい歴史があることは多くの人々の知るところと思いますが、訪れてみて関係の方々への暖かい出迎えや心づかい、そして何ヶ所かによく手入れされた日本庭園があり、石灯籠や句碑などが設置されているのを見て、いっそう独日・日独の文化交流の足跡の偉大さや重み、絆のつよさを感じました。そして独日・日独のそれぞれの協会が交流を続けていることも、両国にとって大変有意義なこと、と強く思いました。もちろん個人的な交流も含めて・・・

今回、全日程同行して下さったメンヒさん、ノイエルトさん。この日々の為に長い期間準備して下さったのだと思います。途中途中での説明も丁寧にわかりやすく、カラーコピーの資料もたくさん用意して下さいました。本当に親身になってお世話くださり、感謝の気持ちで一杯です。

橋本先生も通訳やら、案内やら、その他諸々、八面六臂のご活躍でリードして下さいました。そして独・日双方の協会員みんなが敬愛する木村敬三団長(元駐独大使)ご夫妻のもと、全員が一つにまとまって無事に楽しく、すばらしい旅行が出来ましたことは本当に感謝感激でした。

まだまだ語りつくせませんが、對島さんの細かいお心づかいにも感じいりました。その他にも、多勢の皆様方にお世話様になりました。

有り難うございました。

ドイツ研修旅行に参加して

その歴史の重みを感じて

豊泉君代

日独協会の研修旅行で2週間のドイツ旅行に参加しました。団長は木村元駐独日本大使で、行く先々で、大使、総領事、市長等主催の歓迎会でおもてなしを受けた豪華な旅でした。またワインやビールの原産地だけあって、毎日、さまざまなドイツワイン、地産ビールを楽しむことができました。今は日本でもたくさんの輸入品があり、外国産もたやすく手に入る時代になりましたが、現地で飲むものは、種類も多く、気候、風土にもあって、ひときわおいしく思われました。

ヨーロッパを旅行すると、その歴史の重みから、どこでも必ず戦争の傷跡を見ることになります。今回の旅行でも、ドイツとフランスの国境に位置して、ドイツ領になったり、フランス

領になったりしたストラスブルを訪れました。戦争にほんろうされ、同じ兄弟でもドイツ兵になったり、フランス兵になったりして、戦ったということです。

たまたま参加者の中で、最年長でいらっしゃる佐藤進一先生とお話をする機会があり、先生と私の父が、ともに軍医として、同じ戦場で戦ったことを知りました。父は生前、子供たちに戦争の話をするには一度も無かったので、父の戦争体験は全く知りませんでした。思いがけず、この旅の中で、父の空白であった部分を埋めることができました。

現代では、世界中を観光旅行で訪れることができます。でもこの良い時代を迎えるためには、日本にも戦いがあり、多くの犠牲者があったことを忘れてはならないと思います。何百年もかけて作り上げられた歴史的建造物を見ながら、戦争によって破壊されることがあつてはならないと強く思いました。

ドイツ人から直伝
ジャーマンポテトの作り方
(4人分)

1) ジャーマンポテト (ブラート・カールトツフェルン Bratkartoffeln)

- ① 本格的なドイツ式ジャーマンポテトを作るには、皮をつけたままジャガイモ (6~8個) を茹で、これを冷ましてからラップをせずに冷蔵庫で一晩ねかせる。料理する1時間前に冷蔵庫から出し、皮をむいて5mmから1cmの厚さにスライスしておく
- ② フライパンにサラダ油またはオリーブオイルを入れてベーコン (80g~100g/短冊切り) を炒め (好みによりニンニクのみじん切りを入れる)、ベーコンの油が出たら、これにスライスしたタマネギ (1~1.5個) を入れ、しんなりするまで炒めたら、皿に取り出す。(好みにより、これにシャンピニオンー日本ではマッシュルームと呼んでいるーを入れるとさらに美味しくなる)
- ③ フライパンにサラダ油またはオリーブオイルを入れ、ジャガイモを重ねないように並べて動かさずに中火で焼く。きつね色になったら裏返し、同じように焼く。こんがり焼けたら塩・コショウをふって、しっかりと味をつける。
- ④ ジャガイモが焼けたら、これに②のベーコンとタマネギを戻し入れて温め、パセリのみじん切りをかけてできあがり。

2) ビールのつまみに最高のジャーマンポテト

- ① ジャガイモを5mmの厚さにスライスし、フライパンの上に並べ、油でこんがり揚げ焼きする。
- ② ベーコンをジャガイモの大きさに切り、すこし焼いてジャガイモの上に乗せる。
- ③ スライスチーズをジャガイモより大きめに切り、②の上にかぶせる。
- ④ チーズのふちがパリパリになるまで焼いてできあがり。
- ⑤ 青ノリかマヨネーズをかけて食べても美味しい。

藤井 貞二
(群馬県みどり市)

トピックス

ドイツサロンへどうぞ

平成20年6月6日の第一土曜日から“月に一回”『ドイツサロン』を開設しました。毎回日本に来ているドイツ人研修生が、(財)日独協会のご配慮で来県され、いつも大盛況で楽しい一日を過ごさせていただいています。9月の第4回では、ドイツ大使館より文化部1等書記官のトークラー氏にお越しいただき日独の比較をプロジェクターにて、流暢な日本語での説明がありました。マスターの鈴木剛一郎さんいつもありがとうございます。



皆さんも是非お友達をお誘いして、いらして下さい。

場所ドイツロンネフェルト紅茶店『陶豆屋』

・高崎市石原町 3235 tel027-327-4151

日時 毎月 第一土曜日

14:00～19:00

- ・時間内なら何時でもお出かけください
- ・ドイツに関する関係資料等を若干用意するつもりです

◎ 陶豆屋マスターの鈴木剛一郎さんは、ぐんま日独協会の企画担当の事務局員役員です。

